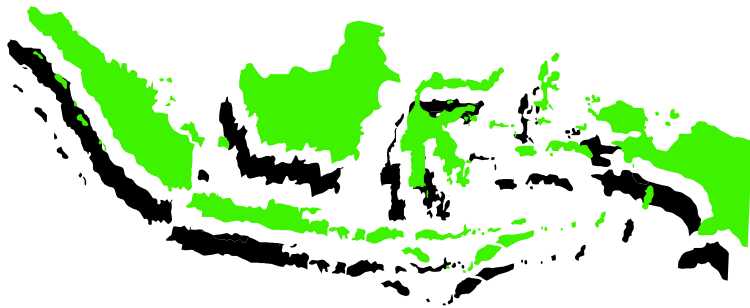
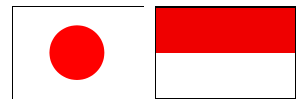


日本との違いから インドネシアを理解する





自己紹介



- 1975/4～1981/6 ヤマハ(株)入社 インドネシア工場立上支援分野配属
- 1981/6～1987/3 インドネシア工場生産課長 電子鍵盤楽器の組立生産
- 1987/3～1995/7 インドネシア工場長 電子楽器、ピアノ、ギターの輸出拠点化
- 1995/7～2005/3 帰国、インドネシアを普及品の生産拠点化するプロジェクト
- 2005/3～現在 ヤマハ退職、インドネシア進出サポートコンサルタントvsして独立
インドネシア語翻訳通訳

静岡大学客員教授、専修大学客員講師

独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)専門家

独立行政法人 中小企業基盤整備機構アドバイザー

一般社団法人海外事業支援センター(OBAC)アドバイザー

一般財団法人海外産業人材育成協会(AOTS)講師

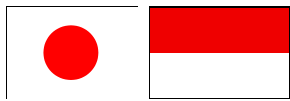
一般社団法人日本インドネシアビジネス協会(ABJI)理事

などを経験し、これまでのインドネシア進出支援企業数は約100社

インドネシアとの
関わりも52年
になりました



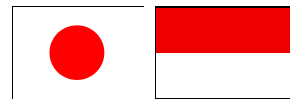
セミナー要旨



- インドネシアと日本は、互いに島嶼国家であることや、米を主食とするなどの共通点も多く、親和性の高い国同士と言えます。
- また、1945年のオランダ植民地支配からの独立に際しては、日本軍がその切っ掛けを作り、そして残留兵が独立戦争に命を懸けてくれた史実などから、世界でも有数な親日的な国の一つであります。
- しかし、日本とは異なる点も多くあり、親和性が高く、親日国であるとの前提でインドネシア人に接する際には、面喰い困惑することもあるでしょう。
- このセミナーでは、初めてインドネシアに赴任する日本人が、インドネシア人についての予備知識を持って、彼らと接することが出来る事を願い、日本との違いからインドネシアを理解出来るように解説します。



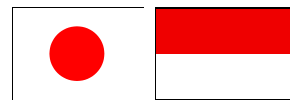
目次



1. 自然災害大国 vs 南太平洋の楽園
2. 神道および仏教 vs イスラム教
3. 日本語 vs インドネシア語
4. 鎖国から明治維新 vs オランダ植民地
5. 封建制度 vs 王国制度
6. 単一種族・民族 vs 多民族・民族
7. 対米従属国家 vs 独立主権国家
8. 技術立国 vs 資源大国
9. 百万円単位の汚職 vs 百億円単位の汚職



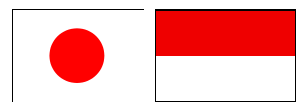
1. 自然災害大国 vs 南太平洋の楽園



- 日本は自然災害大国と呼ばれるくらい、一年を通して台風、地震および津波、そして大雪などの被害を受けます。
- このため、日本人はこれらの自然災害からの被害を少なくするために、治水、耐震建築、防潮堤建設、そして融雪道路など、あらゆる対策を施して来ました。
- これらの**厳しい自然環境から命を守る**ために、時間厳守とか危険予知と言った行動規範が文化として根付いたと思われれます。
- インドネシアにも2004年12月のスマトラ北部の大津波や、2025年11月の大洪水などの悲惨な自然被害は起きています。
- また、200以上存在する活火山は、定期的に噴火して麓の村落に被害を及ぼすとか、雨期になると決まって洪水が発生する地域があります。
- しかし、熱帯雨林で雨期と乾期はあるものの、年間を通じて28度前後の気候と、昼と夜の長さがほぼ同じ毎日の繰り返しは、自然に対する危機感や恐怖心を忘れさせてしまいます。
- **自然は寛容で慈悲深く**、あくせくしなくても、常に自分達を守ってくれるものである、という感覚に浸ってしまいます。



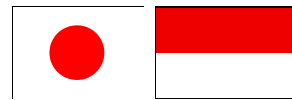
2. 神道および仏教 vs イスラム教



- 日本には2600年に及ぶ万系一世の天皇が存在し、それは神話の世界から続いており、日本に生まれた日本人は、全て天皇の臣民と言われていますが、多くの日本人はこのことを意識せずに暮らしています。
- 後年、中国と朝鮮半島を經由して日本に入って来た仏教は、神道から排斥され、争うこともありましたが、現在では同じ敷地内に神社と仏寺が建てられているところが多く存在し、日本人はこのことには違和感を持つことも無い様子です。
- 戦後の日本人は宗教行事にさほど時間とお金を費やしなくなったこともあり、無宗教と言われることもありますが、逆に暮らしの中に浸透し、**空気の様な存在**になったのではないかと考えます。
- インドネシアでは、1世紀頃にヒンズー教、そして仏教が伝来し、15世紀頃からイスラム教が伝来しました。
- 1945年の独立に際して制定された建国五原則の中で、宗教は自由であるが信仰は義務付けられており、国民の90%がイスラム教徒であることは良く知られている事実です。
- 基本的には政教分離と言われていますが、世界最大のイスラム教徒を抱えるインドネシアにおいては、社会活動が**イスラム教の戒律に支配**されるのは必然で、色々な局面で宗教色濃く出で来るのは当然と言えるでしょう。



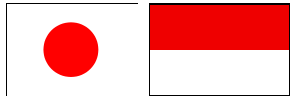
3. 日本語 vs インドネシア語



- インドネシアに駐在していた30代の頃、新商品を現地生産する準備の一環で、製造部門の幹部候補4名を、一年間にわたる日本研修に派遣することにしました。
- 彼らには日本語を習得させるべく、私自身が先生となり、毎日就業後に2時間の特訓をしましたが、それまで当たり前のように使っていた日本語が、ゼロから勉強するとなると、如何に難しいのかを嫌と言う程思い知りました。
- この難しさが日本語の特徴であり、これを操ることで日本人は**独特の文化**を築いて来たと言えるでしょう。
- インドネシア語はオランダ植民地支配の時代に、植民地政府が共通語として使用を強制したマレー語が元になっています。
- 歴史が浅いこともあり、文法は非常に簡単で、学術用語や産業用語がほとんど無かったため、多くは英語をもじったインドネシア語を使っています。
- 独立の際には、国民の6割が使うジャワ語を公用語にする案もあったようですが、ジャワ人以外の民族が反発して、国家統一の障害となることを避け、敢えて植民地時代に普及したマレー語を選んだとも言われています。
- しかし、ジャワ人がジャワ語を話す時とインドネシア語を話す時では、その人の醸し出す雰囲気が変わるのは、インドネシア語には無い、**言霊の存在**のせいかもしれません。



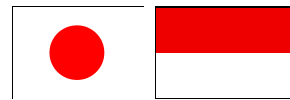
4. 鎖国から明治維新 vs オランダ植民地



- 日本は江戸時代に入ってから鎖国政策を取り、諸外国との往来は禁止されました。
- しかし、長崎の出島などからは、海外の情報は十分に入って来ており、国際情勢はかなり詳しく把握していたようです。
- 反面、国内では**教育が行き渡り**、その後の“ものづくり”の基盤となるような技能や技術が盛んになっていたと言われます。
- そのような背景があったからこそ、明治維新の後には世界が驚くような速さで、欧米列強の産業や軍事に追い付くことが出来たのでしょう。
- 現在インドネシアと呼ばれているこの地域は、この間はオランダ東インド会社による、植民地支配の下にありました。
- 一部の特権階級である王族や政府高官の現地人を除き、一般住民は**教育を受ける機会もほとんど無く**、最高の職業は特権階級のお抱え運転手と言う時代だったようです。
- このことが、1945年に独立してから後も、特に産業の分野で、日本を始めとする外国からの人・物・金に大きく依存する形になったものと思われれます。



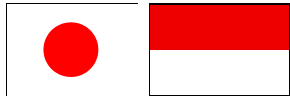
5. 封建制度 vs 王国制度



- 日本は長い間、天皇の臣下としての歴代の幕府が、各地の豪族や大名にその土地の管理権限を委託する、いわゆる封建制度を取って来ました。
- 歴史上この制度が取られたのは、欧州と日本だけで、この権限の委託制度が、その後の**議会制民主主義**の実現に繋がったと言われています。
- その他の地域では王国が群雄するだけで、封建制度が根付かなかったことから、現在でも議会制民主主義が実現していません。
- インドネシアは1945年に独立するまでは、各地に王国が存在し、17世紀以降はそれらの王国を、オランダ東インド会社が植民地として支配して来ました。
- しかしその形はあくまでも植民地支配であり、封建制度とは大きく異なるものでした。
- 独立後のスカルノ政権とスハルト政権は、**社会主義と軍事独裁主義**と形は違うものの、議会制民主主義とは言えなかったと思います。
- 2004年以降のユドヨノ政権以降は、国民の直接選挙による議会制民主主義が実現されたようですが、油断をすると脆く崩壊する危険があるでしょう。



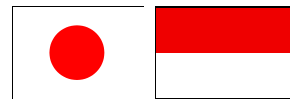
6. 単一種族・民族 vs 多種族・民族



- 日本人はいわゆる**大和民族**と言われる単一種族からなる単一民族の国民です。
- 太古の昔から渡来人も多いと言われていいますので、厳密に定義すると単一種族ではないと主張出来るかもしれませんが、民族的には同じ一つの言語を使う単一民族と言えるでしょう。
- アイヌ民族や琉球民族は別であるとの主張もありますが、ここではその議論は取り上げません。
- インドネシア人は種族的には台湾から南下して来たマレー人と、ポリネシア人が古くからの主体であるようです。
- その後、中国大陸から南下して来た支那人や、オランダ東インド会社の官僚や警察として連れて来られたインド人などが移民として住み着いたと思われまます。
- 先住民としてのマレー系やポリネシア系も、17,000前後の島々に分かれている間に、言語や風習が異なり、インドネシア共和国として独立したときには、**200以上の民族**を形成していました。
- 80年前までは違う言葉を話し、宗教も異なり、見た目も異なる民族が、いくつかの王国に支配されていた世界を理解するのは、日本人にとっては容易いことではありません。



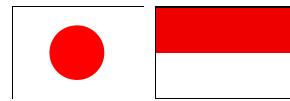
7. 対米従属国家 vs 独立主権国家



- 日本は大東亜戦争でアメリカに負けた7年後には、サンフランシスコ講和条約により独立国となりました。
- しかし、アメリカの支配下で作られた日本国憲法は一字も変えることなく存続し、その後の日米安全保障条約の下、**今日も対米従属国**としての国の在り方は変わっていません。
- それを顕著に示すものとして、日本国内に存在する米軍基地の数は76カ所で、世界最大の規模です。
- 55年体制と称される、1955年に当時の自由党と民主党が統合されて、現在まで日本の政治を支配している自由民主党は、当時のアメリカ中央情報局(CIA)の資金提供で作られた政党であることは、公文書で明らかにされています。
- インドネシアは1942年の日本軍による、オランダ領奪取の結果として1945年に独立し、その後は**非同盟主義**を貫いて来ました。
- 経済面ならびに軍事面の支援は時の政権により、西側あるいは東側からの傾向が変わることはありますが、独立主権国家としての立場は堅持して来ました。
- 今後の経済成長で世界の上位に上り詰めることは確実で、国際社会での存在感は年々高まるものと期待されます。



8. 技術立国 vs 資源大国

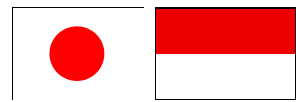


- 日本は狭い国土のほとんどを山脈に覆われ、多くの急峻な川で行く手を遮られる地形に合せ、大陸の様な大規模な馬車を使わずに、人力でも運べるように、いわゆる“**軽薄短小**”なものづくりに、古来から精を出して来たと言う説があります。
- そのような歴史と伝統を背景として、明治維新以降は技術立国としての名声を博し、戦後は産業分野において多くの世界的なブランドを構築し、現在ではそれが衰えた言えども、特種素材や製造装置の分野では、無くてはならない存在として世界をリードしています。
- 忸怩たる思いはありますが、世界の工場と言われる現在の中国も、これら日本の技術の上に成り立っていると言えるでしょう。
- インドネシアは日本がそのような文化を熟成させている時代は、オランダの植民地支配下にあり、技術分野での発展は削がれましたが、広い国土と領海には**無限の資源**が潜在しています。
- 独立後、スハルト政権の下では、鉱物資源の殆どは欧米の資源メジャーに支配され、国内産業の発展には寄与して来ませんでした。
- しかし、2000年以降に民主化されてからは、資源から消費者までのサプライチェーンを国内で実現させる動きが出始めており、時間は掛かるでしょうが、日本が貢献出来る分野も多く、将来が楽しみです。



9. 百万円単位の汚職 vs 百億円単位の汚職●

- 日本は昭和時代には、億円単位の汚職が摘発された政治家や経済人が居ましたが、最近でも実際には国民の知らないところで行われているのかもしれませんが、報道されるのは百万円前後の事件がほとんどです。
- メディアのジャーナリズムの質が低下したのか、それとも政財界のダイナミズムが収縮したのかは分かりませんが、世銀による世界の政治腐敗抑制度国別ランキングでは、75.32ポイントで215カ国中**24位**に付けています。(トップはデンマークの94.16ポイントでした)
- インドネシアは36.83ポイントで**143位**でした。(因みに腐敗国家として有名なウクライナは157位で34.24ポイントでした)
- これは公権力がどの程度私腹を肥やすために使われているかの観点で評価され、腐敗には大規模な汚職だけでなく小規模な汚職、高級官僚による国家利権の収奪なども含まれます。
- 現地のニュースでは政財界の大物による汚職が頻繁に報道され、その額が百億円から数兆円の大台に乗ることには呆れるばかりです。
- それらのほとんどは国庫からの損失であり、どれだけ国の発展を阻害しているのか、考えただけでも溜息が出ます。



[インドネシア進出サポート公式サイト](#)

インドネシア進出準備から撤退までの要点を簡潔にまとめたGoogleトップランキングサイトで、毎月1日発行のメルマガのバックナンバーも掲載しています。

[インドネシア最新情報ブログ](#)

日本の普通のメディアでは報じられない情報を、独自のコメント付きで紹介しています。

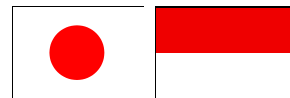
[インドネシア進出サポートウェブセミナー](#)

公式サイトに掲載されたセミナースライドを、音声解説付きでYoutube上にアップロードしており、インドネシア週刊ニュースダイジェストも毎週月曜日に発信しています。

[インドネシア進出ハンドブック](#)

インドネシアでの事業展開に必要な知見と手続きを網羅したもので、随時更新されています。

**愛する二つの祖国である、日本とインドネシアの発展のため、
全てのコンテンツは無料で公開しております**



**ご清聴ありがとうございました
ここからは質疑応答です**